

これからの高校に期待される学力

上智大学 奈須正裕

学力論の2つの系譜

- ▶ 「内容」を基盤とした学力論

コンテンツ・ベース

「何を知っているか」

A問題的学力

- ▶ 「資質・能力」を基盤とした学力論

コンピテンシー・ベース

competencies = 「有能さ」・・・対象や場面と適切に関われる

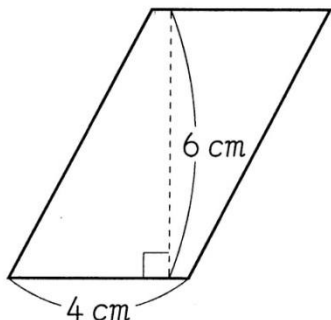
「どのような問題解決を現に成し遂げるか」

B問題的学力、PISA型学力 → 高大接続改革

全国学力・学習状況調査：A問題とB問題

次の図形の面積を求める式と答えを書きましょう。

(1) 平行四辺形



6年生算数のA問題(上)とB問題(右)
(平成19年度全国学力学習状況調査より)

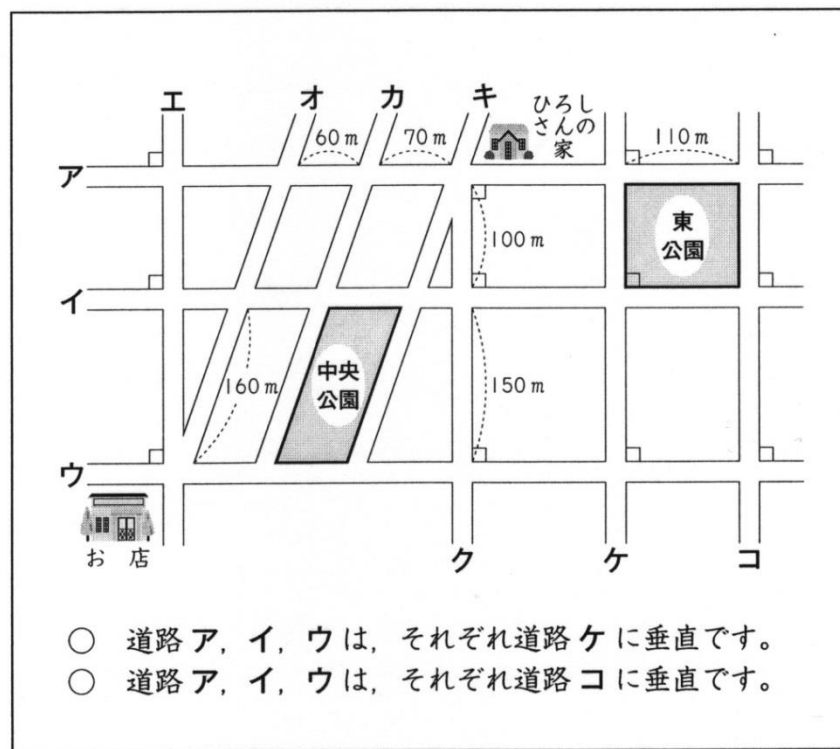
正答率：A問題 96%、B問題 18%

知識を持っていても
使えるとは限らない

(3) ひろしさんの家の近くに東公園があります。

東公園の面積と中央公園の面積では、どちらのほうが広いですか。

答えを書きましょう。また、そのわけを、言葉や式などを使って書きま
しょう。



PISA読解力問題：落書き

学校の壁の落書きに頭に来ています。壁から落書きを消して塗り直すのは、今度が4度目だからです。創造力という点では見上げたものだけれど、社会に余分な損失を負担させないで、自分を表現する方法を探すべきです。

禁じられている場所に落書きするという、若い人たちの評価を落とすようなことを、なぜするのでしょうか。プロの芸術家は、通りに絵をつるしたりなんかしないで、正式な場所に展示して、金銭的援助を求め、名声を獲得するのではないのでしょうか。

わたしの考えでは、建物やフェンス、公園のベンチは、それ自体がすでに芸術作品です。落書きでそうした建築物を台なしにするというのは、ほんとに悲しいことです。それだけではなくて、落書きという手段は、オゾン層を破壊します。そうした「芸術作品」は、そのたびに消されてしまうのに、この犯罪的な芸術家たちはなぜ落書きをして困らせるのか、本当に私は理解できません。

ヘルガ

十人十色。人の好みなんてさまざまです。世の中はコミュニケーションと広告であふれています。企業のロゴ、お店の看板、通りに面した大きくて目ざわりなポスター。こういうのは許されるでしょうか。そう、大抵は許されます。では、落書きは許されますか。許せるという人もいれば、許せないという人もいます。

落書きのための代金はだれが払うのでしょうか。だれが最後に広告の代金を払うのでしょうか。その通り、消費者です。

看板を立てた人は、あなたに許可を求めましたか。求めています。それでは、落書きをする人は許可を求めなければいけませんか。これは単に、コミュニケーションの問題ではないでしょうか。あなた自身の名前も、非行少年グループの名前も、通りで見かける大きな製作物も、一種のコミュニケーションではないかしら。

数年前に店で見かけた、しま模様やチェックの柄の洋服はどうでしょう。それにスキーウェアも。そうした洋服の模様や色は、花模様が描かれたコンクリートの壁をそっくりそのまま真似たものです。そうした模様や色は受け入れられ、高く評価されているのに、それと同じスタイルの落書きが不愉快とみなされているなんて、笑ってしまいます。

芸術多難の時代です。

ソフィア

問いと採点基準

●問い

手紙に何が書かれているか、内容について考えてみましょう。

手紙がどのような書き方で書かれているか、スタイルについて考えてみましょう。

どちらの手紙に賛成するかは別として、あなたの意見では、どちらの手紙がよい手紙だと思いますか。片方あるいは両方の手紙の書き方にふれながら、あなたの答えを説明してください。

●採点基準

片方または両方の手紙の**スタイル**について意見を述べている。**文体、議論の組立て、議論の説得力、論調、用語、読み手に訴える手法**などの特徴を説明している。「よい議論」と述べている場合、それについての**立証**が必要である。

資質・能力(コンピテンシー)への注目

- ▶ マクレランドの発見:コンテンツ・ベイス・テストの成績は将来の成功を予測しない(1970年代)
- ▶ 成功を予測した指標:達成への意欲、感情の自己調整能力、問題解決力、対人関係能力、コミュニケーション能力…
- ▶ 人事管理の改革を經由して高等教育、初等中等教育へ…
 - ①優れた問題解決に必要な十分な要因=コンピテンシー(資質・能力)による学力論の再定義
 - ②非認知能力の学力論への組み入れ要求
 - ③思考力・判断力・表現力の重視
 - ④知識・技能の質的改善:暗記的知識から活用の効く知識へ、要素的知識から統合化された知識へ

学びに向かう力
人間性等

どのように社会・世界と関わり、
よりよい人生を送るか

何を理解しているか
何ができるか

知識・技能

理解していること・できる
ことをどう使うか

思考力・判断力・表現力等

なぜ今、コンピテンシーなの？

- ▶ 子どもたちの**65%**は将来、今は存在していない職業に就く(キャシー・デビッドソン)
- ▶ 今後10年～20年程度で、**47%**の仕事が自動化される可能性が高い(マイケル・オズボーン)
- ▶ **2045年**には人工知能が人類を越える「シンギュラリティ」に到達する可能性がある

- ▶ 要素的な知識・技能の価値の低下
- ▶ 「型にはまった仕事」が機械に取って代わられる
- ▶ とはいえ、コンピュータは人間とは異なる
- ▶ 人間にこそ出来ることを、今後の学校教育は目指すべき
- ▶ 価値の判断・創造、意思の決定、多様な他者との協働・・・
- ▶ 従来型の教育には、人間の「機械化」の側面があった
- ▶ AI化の進展、Society5.0は、教育の「人間化」の好機

上からの改革も進んできた

- ▶ 「大学入試があるから」という言い訳の消失
- ▶ すでに私立大学入学者の半数近くがAO・推薦入試
- ▶ 国立大学も3割をAO・推薦入試に
- ▶ 「青田刈り」「定員確保」だけでなく、実際にコンピテンシーが結構あてになるから
- ▶ 1～3月期の一般入試は大幅に縮小？
- ▶ 多様な指標や方法による入試選抜は欧米では普通
- ▶ テスト技術の進化・変化：
 - ①IRT(項目反応理論)
 - ②CBT(コンピュータの使用)
 - ③適応型テスト
- …自由記述を用いなくとも、思考力・判断力・表現力を見ることは可能

ICTの日常的な活用

- ▶ ICTを活用した授業を考えるのではなく、ICTを文房具にする
- ▶ 教師が教えるための道具ではなく、生徒が学び考えるための道具

- ▶ わからないことがあれば、いつでも調べる習慣をつける
- ▶ 「そんなことをすると、私が教えることがなくなります」
- ▶ 一通りの情報を得たその先で立ち上がる問いを出発点にする授業

- ▶ 一人一台のPCの本質はアカウント
- ▶ 学校を飛び出しても、別なデバイスでも同じことができる環境を

不活性な知識(知っているだけ)と 活性化された知識(活用できる)の違い

- ▶ 不活性な知識: 言語的な命題や事実として貯蔵
- ▶ 「車両走行中にアクセルペダルから足を離したり低いギアにチェンジすることによって生じる制動作用をエンジnbr레이크と言う」
- ▶ 活性化された知識: 条件(IF)節と行為(THEN)節の対として貯蔵
- ▶ 「もし、急な下り坂や雪道ならば」(条件節)
- ▶ 「車両走行中にアクセルペダルから足を離したり低いギアにチェンジすることによって生じる制動作用(=エンジnbr레이크)を使って走行しなさい」(行為節)
- ▶ 学びの状況を、現実の社会に存在する本物の実践に可能な限り近づけて学びをデザインする→学ばれた知識も本物になる
- ▶ オーセンティックな(真正な、本物の)学習

トマトの授業

- ▶ 2個入りと4個入りのトマト、どっちがお買い得か？
「4個入りの方が、1個あたりの値段が安いからお買い得」
- ▶ さらに4個入りのブランド・トマト、9個入りのミニトマト
「高いけどリコピンが1.5倍だから栄養ではかえってお得」
「ミニトマトは1個あたりが安いけど、物足りないからダメ」
「でも、お弁当にはミニトマトが便利だからお買い得」
「うちはお母さんと2人家族だから、4個だと余っちゃう。
うちとしては2個パックがむしろお買い得かも！」
- ▶ 数理の手続き→数理の意味→数理のよさ・限界
- ▶ どんな場面で、どんな理由で、その知識が使えるかわかっていないと、知識は使えない

英語教育における基礎とは何か？

- ▶ How are you? I'm fine thank you. から先へ進まないのはなぜ？
- ▶ 単語・構文に関する知識・技能の定着不足？
- ▶ パターン・プラクティスが不十分？
- ▶ むしろ、単調なパターン・プラクティスのやり過ぎで頭と身体が凝り固まっている(常にパターンを探している)のでは？
- ▶ コミュニケートする内容について頭を使わないのは不自然
- ▶ CLIL(Content and Language Integrated Learning: 内容言語統合型学習)
- ▶ 改めて「教科の基礎とは何か」を問い直す時期に来ている

「網羅」から「看破」へ

- ▶ 「個々の事実に関する知識を習得することだけが学習の最終的な目的ではなく、新たに獲得した知識が既存の知識と関連付けられたり組み合わせられたりしていく過程で、様々な場面で活用される体系的な概念等として身に付いていくということが重要」(中教審答申 2016年12月21日)
- ▶ 「網羅」する学習(Coverage Learning)
- ▶ 個々のコンテンツをバラバラに列挙する授業
- ▶ 「思考を伴わない習得」(Thoughtless Mastery)
- ▶ 「看破」する学習(Uncoverage Learning)学習
- ▶ 個々のコンテンツを生み出し、それらを集約的に整理しうる教科の本質＝「見方・考え方」を明示し、統合的な意味理解を促す授業
- ▶ 「中核概念」(Big Idea、Central Idea)、「構造」(Structure)

特徴
科目
の

○世界とそこにおける日本を広く相互的な視野から捉えて、近現代の歴史を理解する科目

○歴史の推移や変化を踏まえ、課題の解決を視野に入れて、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を考察する科目

○歴史の大きな転換に着目し、単元の基軸となる問いを設け、資料を活用しながら、歴史の学び方（類似・差異・因果関係）に着目する等）を習得する科目

「グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者」を育成するために

現代的な諸課題につながる歴史的な状況（例）
 <a 自由と制限> <b 富裕と貧困> <c 対立と協調>
 <d 統合と分化> <e 開発と保全> など

学習内容
の
焦点化

●歴史の扉～歴史をなぜ学ぶか、どう学ぶか～（例：歴史と現在～現代的な諸課題）

●近代化と私たち～社会構造の変化を考察するため

【単元例】

- *結び付く日本と世界
- 産業社会の到来、政治の変革
- 日本の改革、アジアやアフリカの変容など
- (まとめ)歴史と現在①～近代社会

【考察を深める問いの事例】（例）a～bなどを中心として

- ・日本・世界はどのように結び付いたか
- ・工業化と政治変革は何をもたらしたか
- ・日本・アジアやアフリカはどのように変化したか
- (まとめ/基軸となる問い)社会の近代化は何をもたらしたか など

●大衆化と私たち～個人・集団と社会との関わりを考察するため

【単元例】

- 大衆社会の形成、社会運動の高まり
- 国際紛争と国際協調
- 大戦後の世界・日本など
- (まとめ)歴史と現在②～大衆社会

【考察を深める問いの事例】（例）a～cなどを中心として

- ・な政治参加と文化活動が拡大したか
- ・な戦争がすべての人々を巻き込むものになったか
- ・大戦を経て、どのように社会は変わったか
- (まとめ/基軸となる問い)社会の大衆化は何をもたらしたか など

●グローバル化と私たち～持続可能な社会を展望するため

【単元例】

- 多極化と地域統合
- 地域紛争と国際秩序
- 世界とそこの中の日本など
- (まとめ)歴史と現在③～グローバル社会

【考察を深める問いの事例】（例）a～eのいくつかから

- ・冷戦構造の変化は何をもたらしたか
- ・冷戦終結後も、なぜ地域紛争は続くのか
- ・日本は国際社会にどのように関わってきたか
- (まとめ/基軸となる問い)国際社会のグローバル化は新たに何をもたらしたか、あなたはどんな日本/世界を求めたいか など

・18世紀後半～現在

産業社会と国民国家を形成する動きがみられ、社会が大きく変化しはじめた。

・19世紀後半～現在

大衆の参加の拡大が社会全体の在り方を規定するようになりはじめた。

・20世紀後半～現在..

人・モノ・情報が国境を越えて一層流動するようになりはじめた。

取り上げることが考えられる題

…アジア域内貿易、産業/市民革命、近代科学、立憲政治、議会制民主主義（代議制民主主義）、資本/社会主義、明治維新、国民国家、国民文化、政党政治、ジャポニズム、消費社会、マスコミ、教育、移民、帝国主義、総力戦、植民地、大正デモクラシー、国際協調、世界/昭和恐慌、全体主義、冷戦、地域紛争、地域統合、ナショナリズム、難民、高度経済成長、多国籍企業、市場経済、情報通信技術（ICT）…など

歴史の学び方（例）

○社会的事象の歴史的な見方・考え方を、用いて学ぶ方法（例）
 社会的事象を、時期・推移などに着目して捉え、

比較して類似や差異などを明確にしたり、事象同士を因果関係などで関連付けたり

⇒事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する など

*「近代化」「大衆化」「グローバル化」といった近現代の歴史の大きな転換に着目する際には、欧米等特定の地域の動きやそれらの動きが歴史に与える影響のみに着目することがないよう留意する必要がある。

*考察を深める問いについては、取り上げる時期を広げて設定したり、多様な地域を視野に入れて設定することが考えられる。

*各近代化等個人において例示現代社会諸課題と世界における歴史近代化の前後を踏まえて、地域や個人に全体構想を述べたり、考察しあえる日本と世界の商業や交易に触れ導入とすることが考えられる。

*上記（まとめ）は、中学校までの既習事項を主に活用しながら、歴史の大きな転換が現在とどのように関わっているかを考察する単元として構成することが考えられる。

高等学校学習指導要領における「公共（仮称）」の改訂の方向性（案）

平成28年7月19日
教育課程部会
社会・地理歴史・公民
ワーキンググループ

「グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者」を育成

新必修科目「公共（仮称）」

資質・能力

- 現代社会の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論の理解、及び諸資料から、倫理的、政治的、経済的、法的、様々な情報の発信・受信主体等となるために必要な情報を効果的に収集する・読み取る・まとめる技能
- 選択・判断するための手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、現代の社会的事象や現実社会の諸課題の解決に向けて、事実を基に協働的に考察し、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして論拠を基に議論する力
- 現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に積極的な役割を果たそうとする自覚など

(1)「公共」の扉

⇒ 自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、他者との協働により国家や社会など公共的な空間を作る主体であるということ等を学ぶとともに、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論、公共的な空間における基本的原理を理解し、(2)、(3)の学習の基盤を養う。

ア 公共的な空間を作る私たち

⇒ 今まで受け継がれてきた蓄積や先人の取組、知恵などを踏まえ、①「様々な立場や文化等を背景にして社会が成立していること」、②「自立した主体とは何か」を問い、自らを成長させることや、対話を通じてお互いを理解し高め合うこと」の両者によって公共的な空間を作り出していくことについて学ぶ。

イ 公共的な空間における人間としての在り方生き方

⇒ 社会に参画し、他者と協働する倫理的主体として、行為の善さを個人が判断するための手掛かりとなる、①「その行為の結果である、個人や社会全体の幸福を重視する考え方」と②「その行為の動機となる人間的責務としての公正などを重視する考え方」について理解させる。その際、行為の結果について、多面的・多角的に考えていくことが重要であることなどの留意点についても指導する。

ウ 公共的な空間における基本的原理

⇒ 個人と社会との関わりにおいて、個人の尊重を前提に、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保をともに図ることなどの公共的な空間における基本的原理について理解させる。その際、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務、相互承認などを取り上げる。

倫理的主体となる私たち

(2)自立した主体として国家・社会の形成に参画し、他者と協働するために

⇒ 小・中学校社会科で習得した知識等を基盤に、(1)で身に付けた選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理等を活用して現実社会の諸課題を自ら見出し、考察、構想するとともに、協働の必要な理由、協働を可能とする条件、協働を阻害する要因などについて考察を深める。その際、公共的な空間を支える様々な制度の改善を通じてよりよい社会を築く自立した主体として生きるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力及び態度を養い、(3)の学習が効果的に行われるよう課題意識の醸成に努めるようにする。

ア 政治的主体となる私たち

<題材の例>

政治参加、世論の形成、地方自治、
国家主権(領土を含む)、国際貢献...

財政と税、社会保障、市場経済の機能と限界、雇用、労働問題
(労働関係法制を含む)...

職業選択、金融の働き、経済のグローバル
化と相互依存関係の深まり...

多様な契約、メディア、情報リテラシー、男女共同参画...

(ア～エのうち二つ、あるいは三つが複合的に関連し合う題材を取り扱うことが考えられる)

イ 経済的主体となる私たち

裁判制度と司法参加...

消費者の権利や責任、契約...

情報モラル...

ウ 法的主体となる私たち

エ 様々な情報の発信・受信主体となる私たち

※ 様々な主体となる個人を支える家族・家庭や地域等にあるコミュニティ

⇒ 世代間協力・交流、自助・共助・公助等による社会的基盤の強化

(3)持続可能な社会づくりの主体となるために

⇒ (1)で身に付けた選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理等を活用するとともに、(2)で行った課題追究的な学習で扱った現実社会の諸課題への関心を一層高め、個人を起点として、自立、協働の観点から、今まで受け継がれてきた蓄積や先人の取組、知恵などを踏まえつつ多様性を尊重し、合意形成や社会参画を視野に入れながら持続可能な地域、国家・社会、国際社会づくりに向けた役割を担う主体となることについて探究を行う。

ア 地域の創造への主体的参画

イ よりよい国家・社会の構築への主体的参画

ウ 国際社会への主体的参画

<題材の例> 公共的な場づくりや安全を目指した地域の活性化、受益と負担の均衡や世代間の調和がとれた社会保障、文化と宗教の多様性、国際平和、国際経済格差の是正と国際協力... などについて探究

家族・家庭、生涯の生活の設計や消費生活等に関する個人を起点とした自立した主体となる力を育む家庭科、横断的・総合的な学習や探究的な学習を行う総合的な探究の時間(仮称)などと連携

考えられる
学習活動の例

討論、ディベート、模擬選挙、
模擬投票、模擬裁判、
インターンシップの事前・
事後の学習 など

関係する
専門家・機関

選挙管理委員会、消費
者センター、弁護士、
NPO など

※ 「公共（仮称）」においては、教科目標の実現を見通した上で、キャリア教育の観点から、特別活動などと連携し、経済、法、情報発信などの主体として社会に参画する力を育む中核的機能を担うことが求められる。
※ 取り上げる事象については、生徒の考えが深まるよう様々な見解を提示することなどが求められる。その際、特定の事柄を強調しすぎたり、一面的な見解を十分な配慮なく取り上げたりするなど、特定の見方や考え方に偏った取扱いにより、生徒が多面的・多角的に考察し、事実を客観的に捉え、公正に判断することを妨げるものがないよう留意すること。また、客観的かつ公正な資料に基づいて指導するよう留意すること。

探究的で教科等横断的な学び

- ▶ 学びの状況をさらに本物にしていくと、教室を飛び出し、教科を越境する
- ▶ 「総合的な探究の時間」「理数探究」

- ▶ 探究課題：地域の自然環境とそこに起きている環境問題
- ▶ 「いくら頑張っても問題が解決しない！」
- ▶ 「いいの、自分たちがやりたくてやっているんだから」
- ▶ 「やめちゃうと、もっと汚くなるしね」
- ▶ 「それでもこうやって続けているうちに、段々仲間も増えてきたよ」
- ▶ 「どのくらい続けているの？」
- ▶ 「早いもので、15年になるかね……」
- ▶ それって、私達が生まれてから今日までじゃん！
- ▶ 「環境問題が『解決』される」ってどういうこと？
- ▶ 「ボランティア」って何？

- ▶ 改めて問い直し、探究した生徒たちの結論は・・・
- ▶ 人間がいなくなれば、少なくとも旺盛な経済活動を行わなければ、自然環境は保全される・・・
- ▶ 私達がいなくなるわけにはいかない！
- ▶ 経済活動を縮小すると、豊かな暮らしが維持できない！
- ▶ あれ？「豊かな暮らし」って何だっけ？
- ▶ 「豊かな自然」がない中での「豊かな暮らし」なんかあるの？
- ▶ 「環境負荷」「持続可能な開発」といった「概念」が、身体的な実感や具体的な景色を伴った意味として了解され始める
- ▶ 「解決」・・・問題が消えてなくなるわけじゃない
 - ①とりあえず不都合のない程度に収める
 - ②今より悪くはならない状態を維持する
 - ③影響の及び方に明らかな不平等がない

より汎用性のある学びへ

- ▶ 個々の対象や領域で「思い違い」に気付き、これを正していく経験を繰り返すことにより、次第に領域や対象を超えた汎用性のある概念やそれを基盤とした教科等横断的な資質・能力も育っていく
- ▶ たとえば・・・
 - ①世の中に「普通」や「あたりまえ」など存在しない
 - ②「普通」や「あたりまえ」が差別や不寛容の源泉である
 - ③思いもしなかった事実や意見の出現は、まだ見ぬ素晴らしい世界との出会いであり、自己更新の好機である
 - ④自分とは異なる他者こそが、自分を成長させてくれる
 - ⑤自分が立っている立場や視点を常に意識することで、より客観的で公正な思考や判断が可能となる・・・

3つの方針は 実効性のあるものに

- ▶ 先生方にとって、日々の教育活動の具体的指針になるか？
- ▶ 生徒にとって、日々の学校生活の具体的指針になるか？
- ▶ 従来の学校教育目標は、単なるスローガンやお題目に留まることが多かった？



IBの学習者像

すべてのIBプログラムは、国際的な視野をもつ人間の育成を目指しています。人類に共通する人間らしさと地球を共に守る責任を認識し、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する人間を育てます。

IBの学習者として、私たちは次の目標に向かって努力します。

探究する人

私たちは、好奇心を育み、探究し研究するスキルを身につけます。ひとりで学んだり、他の人々と共に学んだりします。熱意をもって学び、学ぶ喜びを生涯を通じてもち続けます。

知識のある人

私たちは、概念的な理解を深めて活用し、幅広い分野の知識を探究します。地域社会やグローバル社会における重要な課題や考えに取り組みます。

考える人

私たちは、複雑な問題を分析し、責任ある行動をとるために、批判的かつ創造的に考えるスキルを活用します。率先して理性的で倫理的な判断を下します。

コミュニケーションができる人

私たちは、複数の言語やさまざまな方法を用いて、自信をもって創造的に自分自身を表現します。他の人々や他の集団のものの見方に注意深く耳を傾け、効果的に協力し合います。

信念をもつ人

私たちは、誠実かつ正直に、公正な考えと強い正義感をもって行動します。そして、あらゆる人々があらゆる人々が尊重と権利を尊重して行動します。私たちは、自分自身の行動とそれに伴う結果に責任をもちます。

心を開く人

私たちは、自己の文化と個人的な経験の真価を正しく受け止めると同時に、他の人々の価値観や伝統の真価もまた正しく受け止めます。多様な視点を求め、価値を見だし、その経験を糧に成長しようと努めます。

思いやりのある人

私たちは、思いやりと共感、そして尊重の精神を示します。人の役に立ち、他の人々の生活や私たちを取り巻く世界を良くするために行動します。

挑戦する人

私たちは、不確実な事態に対し、熟慮と決断力をもって向き合います。ひとりで、または協力して新しい考えや方法を探求します。挑戦と変化に機知に富んだ方法で快活に取り組みます。

バランスのとれた人

私たちは、自分自身や他の人々の幸福にとって、私たちの生を構成する知性、身体、心のバランスをとることが大切だと理解しています。また、私たちが他の人々や、私たちが住むこの世界と相互に依存していることを認識しています。

振り返りができる人

私たちは、世界について、そして自分の考えや経験について、深く考察します。自分自身の学びと成長を促すため、自分の長所と短所を理解するよう努めます。

この「IBの学習者像」は、IBワールドスクール（IB認定校）が価値を置く人間性を10の人物像として表しています。こうした人物像は、個人や集団が地域社会や国、そしてグローバルなコミュニティの責任ある一員となることに資すると私たちは信じています。

何を取り、何をあきらめるか？

- ▶ カリキュラムも施設・設備も、すべてを取ることはできない
- ▶ 新校に想定されているリソースをどのように効果的に使うか？
- ▶ 開設可能は科目数は？ 人員配置は？
- ▶ 基本的には、ビルド&ビルドではなく、スクラップ&ビルド

- ▶ 従来の学校にあったものを「あたりまえ」と考えない創造を
- ▶ 学校行事、部活動をどうするか？・・・今年度の経験を踏まえて
- ▶ 社会教育に移管できるものはないか？

- ▶ 学力の質の豊かさを実現する基本戦略: less is more
- ▶ 「少なく教えて豊かに学ぶ」→「そんなことも知らない」可能性を増す
- ▶ 網羅的な知識習得の断念への覚悟・・・学力観の転換